

革新と刷新

建築家 ANTONIO ANDREUCCI

本日は、イタリアの建築家Antonio Andreucci氏（1937-2013）についてお話をさせていただきます。私が幸運にも出会うことができた彼の作品と、私が彼の建築に関わった作品をご紹介します。

彼の建築作品は、革新的な新技術とその過程に焦点を当てると共に、建築と自然領域の必要な繋がりを表現しています。

経歴：

1967年
Antonio氏はフィレンツェ建築大学を卒業し、後に科学技術学部にて教鞭を取る。

1976年
二人の建築家と共にフィレンツェで「CSPE Studio」を設立する。後に彼自身のStudioを彼の故郷であるチェゼーナに設立する。



実験と科学の転送

建築家Antonio Andreucci氏と彼の建築事務所は、国立病院から大学、イタリアの住宅に至るまで、いくつもの重要な事業を手掛けてきました。また、多くの有名な建築コンペにも参加し、優勝を得てきました。

彼の建築事務所のデザイン理念は、「調査は建築物を生み出す推進力である」を基にしています。「新しい科学技術の複雑な建築物への融合」というテーマは、彼の建築事務所が、実験プロジェクトの発展に関わることを可能とさせてきました。

また、ユーザーの再建ニーズに合う、スマートな建築物を提議することが目的であります。

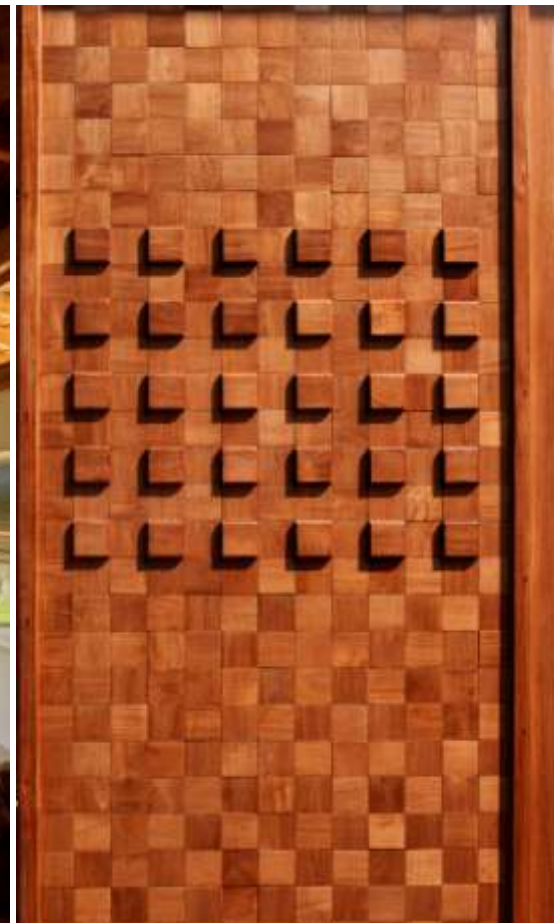


歴史的継続性と革新

「過去と現在の関係」と同様の意味を持つ「歴史とコンテンポラリー（同時代性）の関係」はデザイン過程の中心点である。

コンセプトは伝統に敬意を持ち、と同時に「現時代のデザインにおける言語」を表現することにある。

伝統への敬意、例えば、木やブリックのような伝統的な素材やテキスチャの利用は「職人の熟練した技能」と「工業化」の動的バランスと共に見ることができる。



CSPE 建築事務所により手掛けられた作品

1) Meyer病院「平和の丘」

イタリア フィレンツェ

2000-2007

2) Bonaretti House: 「風景の中の橋」

イタリア チェゼーナ

1999-2001

3) Morganti House: 「家の中の自然景観」

イタリア チェゼーナ

2005-2006

4) Cesena public housing project: 「景観」

イタリア チェゼーナ-建築コンペ作品

2003

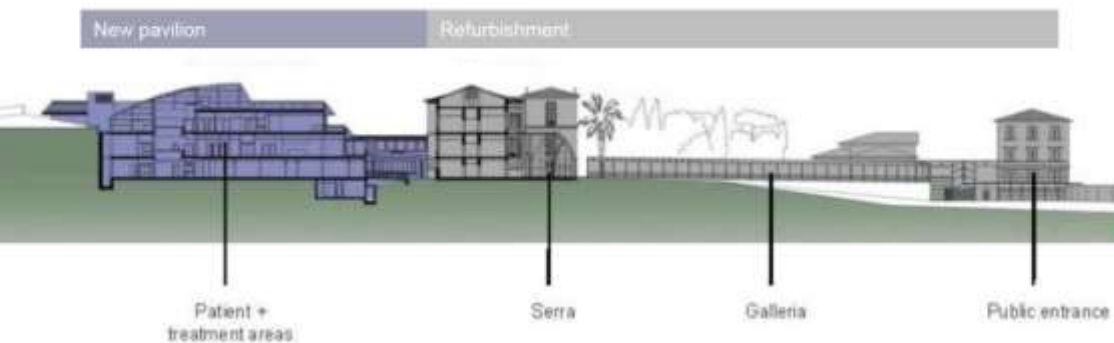
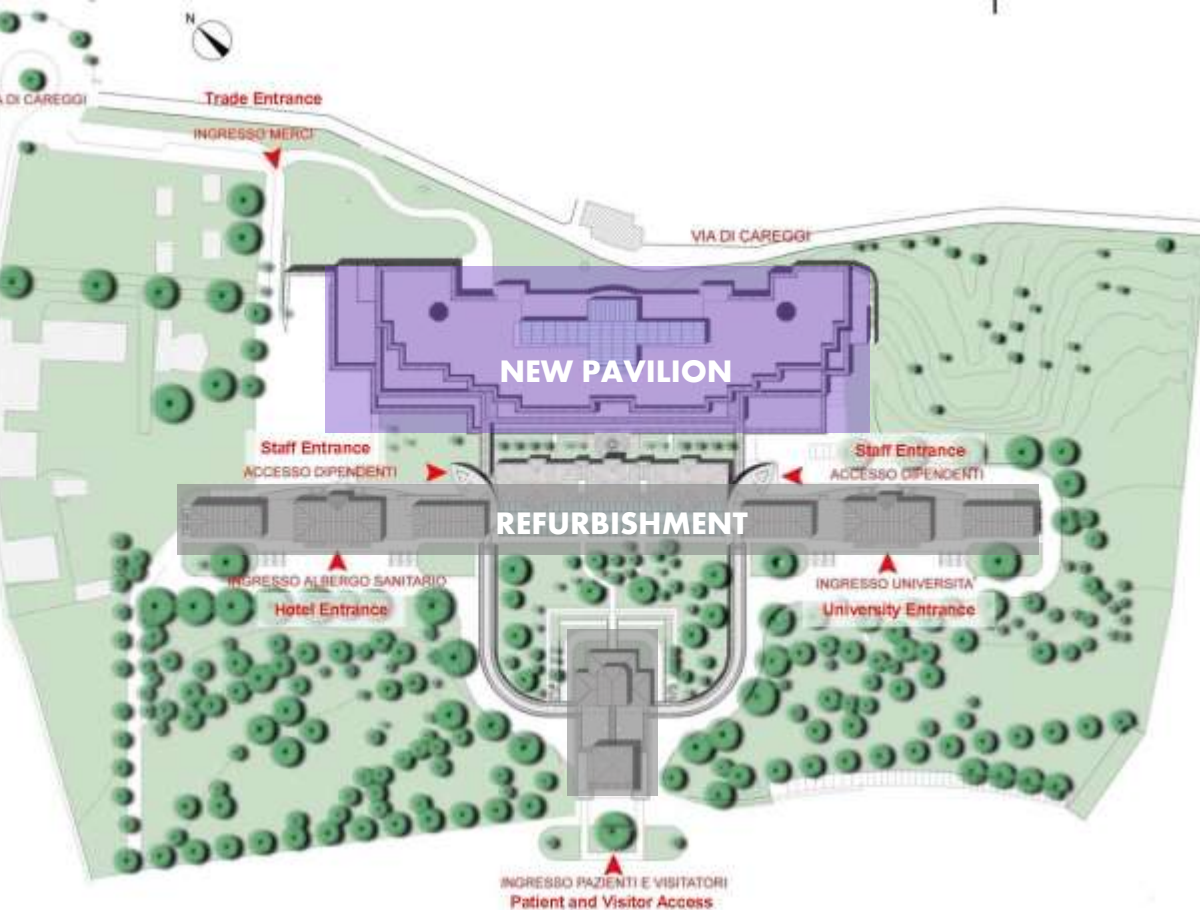


歴史的建築物の刷新

このプロジェクトは'All Saints'と呼ばれる現存する歴史的邸宅の刷新プロジェクトである。この邸宅は、1930年、フィレンツェに初めての結核治療所として開館された。

3棟にまたがるこの歴史的治療所は、異なった機能を持ち合わせて再構築、再編成された。

大きなバイオクリマティック温室が追加されたメインの建物の正面を除いて、現存する建物の正面デザインと同様になるように慎重に再構築された。





自然との対話

フィレンツェの新しい小児科センターの強みは、「環境への大いなる感受性と現存建造物への大いなる尊敬という解決法」と共に、病院のコンセプトと建設の刷新にある。

新しいパビリオンは、周りの環境と調和し、溶け込んでいる。そこでは、自然の等高線が続き、病院が平和の丘へと変化する。



技術革新の過程：協同研究チーム

チームは環境心理学、社会学、生物工学、復元、景観学、健康管理学の専門家で構成された。多分野に渡るコンサルタントによって、伝統的なアプローチを病院のデザインに組み込ませる事が可能となった。

プロジェクトチーム:

- デザイン: CSPE ; Anshen + Allen
- 構造エンジニア: aei ingegneri associati;
Studio Tecnico Chiarugi
- 機械エンジニア: CMZ
- サービスエンジニア: Studio Lombardini Engineering S.r.l.
- 環境心理学者: Prof. Mirilia Bonnes,
Marino Bonaiuto
- ヘルスケア専門家: Prof. Mario Zanetti
- 持続可能環境プログラム: ABITA

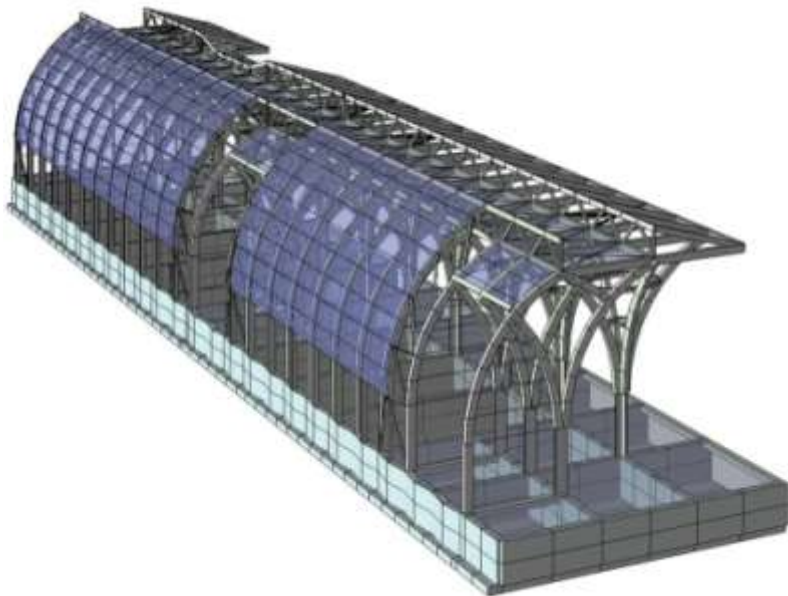
プロジェクト重要点:

- 病院の機能性
- 人間性
- 運営費の抑制
- 内部セキュリティーと生物学的リスクの防止
- ケアの質

環境適合性と省エネルギーの方策

Meyer病院における持続可能性は下記2つの方向性によって示されている。

- 環境適合性
(形状、順応性、設計、メンテナンス管理)
- 省エネルギーを目的とした科学技術
(光電池システム、低消費システム)



環境適合性と省エネルギーの方策

Meyer病院における更なる革新的一面は、屋根緑化である。屋上緑化は利用者に提供されるセラピー空間としての象徴のみならず、高断熱化されており、温度変動にさらされる空間を保護する役目も果たす。



SOLATUBE

ソーラーチューブ





自然との対話

この家は2つの正面を持ち合わせている。

一つ目の正面は、とても大きいのが、派手ではなく、道路に面している。(1)

二つ目の正面は、木々やフィールド、丘で構成される澄み切った周りの風景との連続的な視野をもたらす正面である。(2)



1



2

自然との対話

ここでは自然との対話は直接的である。橋によって、家族は自然景観に直ぐに手を伸ばす事ができる。つまりこの橋は、建物と自然の間における理想的な「へその緒」のようなシンボルと言える。



環境適合性と省エネルギーの方策

部屋の空間分布は、「日当たりの分析」と「太陽光を中に取り入れるために考えられた家の形」によって定義される。

南向きの大きなガラスは、冬場にできる限りの太陽光を取り入れるために設計された。また、夏場に余分な太陽光の侵入を防ぐための、可動式日よけ装置は効果的に夏の太陽光を制御する。

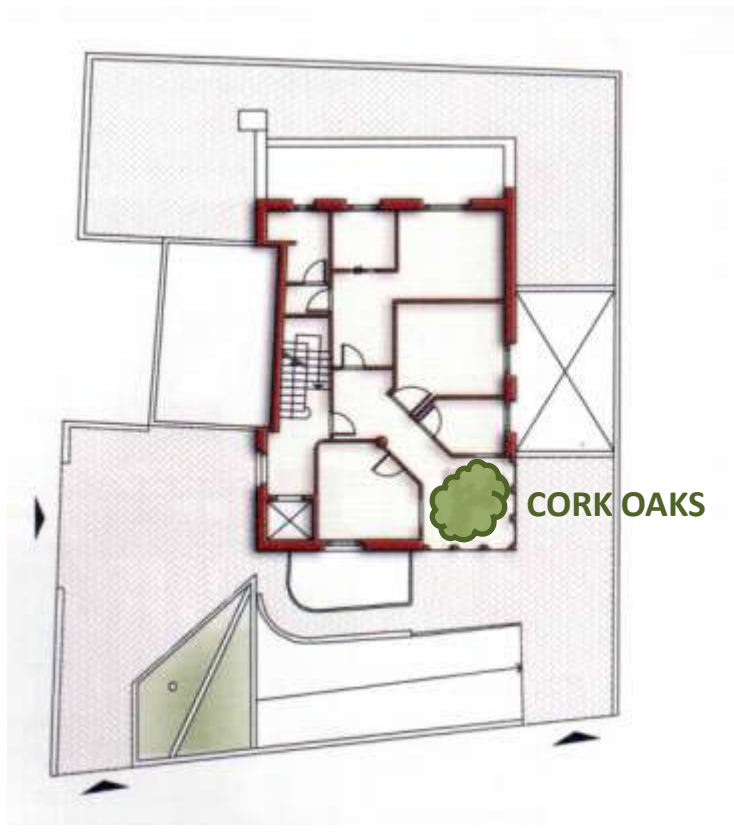




自然との対話

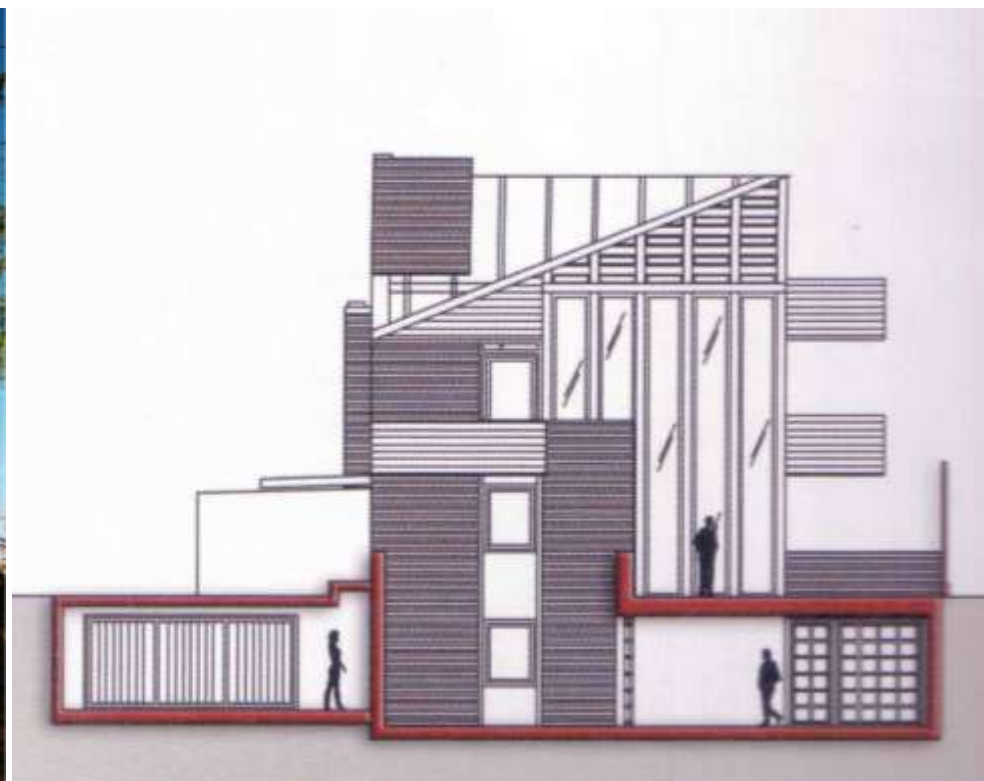
このプロジェクトの焦点は、グリーンハウスである。グリーンハウス部分は南向きに面し、4本の木が植えられている。また、全ての階と接点を持ち、光と熱を家の中に導き入れている。

景観の不足は、家の中に景観を取り込むことにより解決された。



環境適合（互換）性と省エネルギーの方策

バイオメトリック温室の全ての階には、積層木材で作られた窓が設置されている。



素材の強み

透明なガラスと重厚感のあるブリックが共存するデザイン。
ブリック素材は、階段の塔とテラスに使用され、これらの幾何学的デザインを強調する。

また、この建物は、地中海住宅文化における水の重要性を意味する、とても大きな排水管によって特徴づけられている。





公共ハウジングモデルの刷新

第二次世界大戦後の公共ハウジング産業は、イタリアでは最も生産性のある産業の一つであり、都市化における量的成長をもたらした。しかしながら、同時にデザインの質を失った結果となった。

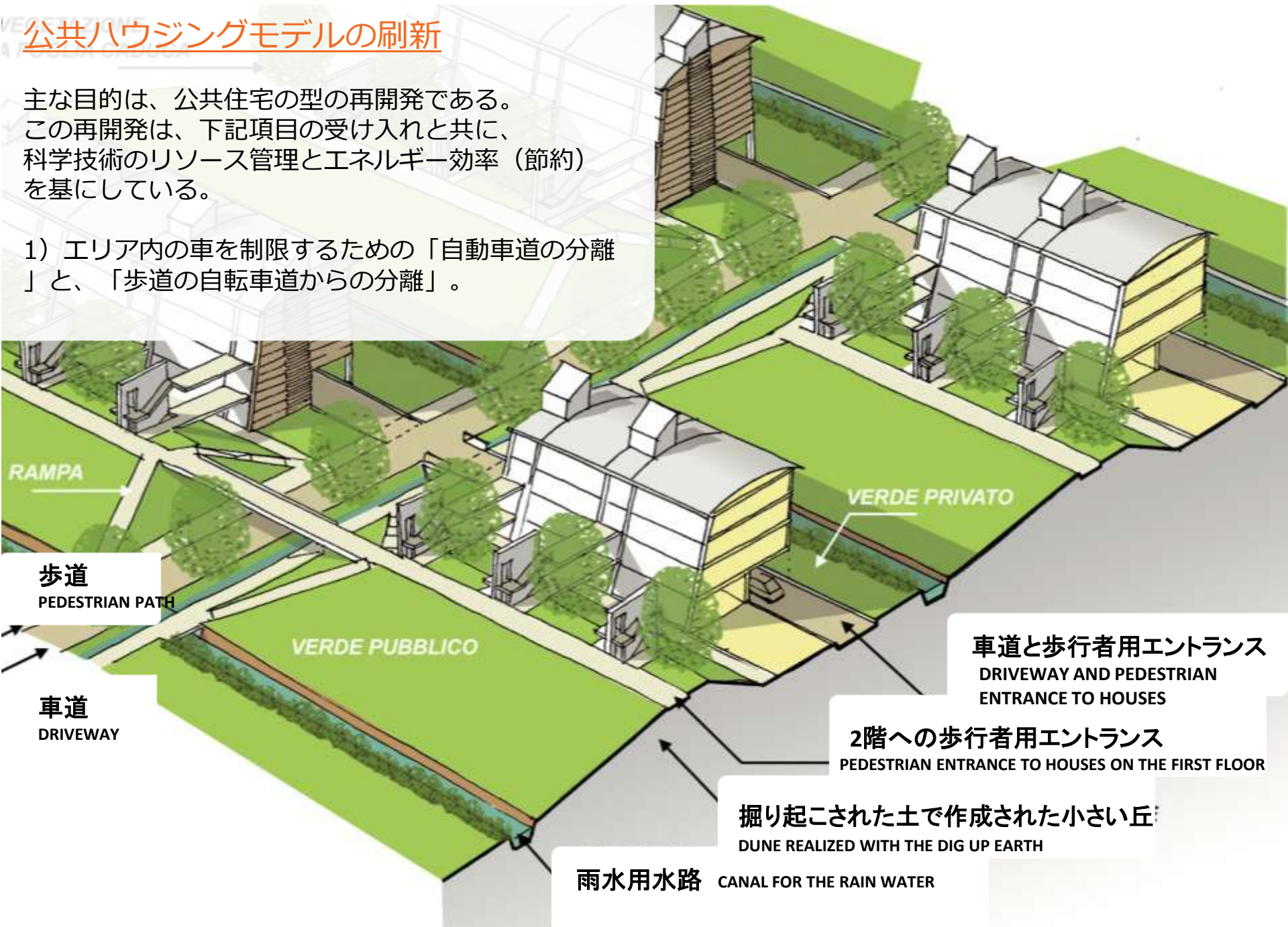


「建設における産業化の役割」と「環境持続性のための革新的なシステムの調査」は、チェゼーナにあるSant'EgidioのPEEPプロジェクト（環境にやさしい定住型住宅）の基礎と言える。

公共ハウジングモデルの刷新

主な目的は、公共住宅の型の再開発である。
この再開発は、下記項目の受け入れと共に、
科学技術のリソース管理とエネルギー効率（節約）
を基にしている。

- 1) エリア内の車を制限するための「自動車道の分離」と、「歩道の自転車道からの分離」。



公共ハウジングモデルの刷新

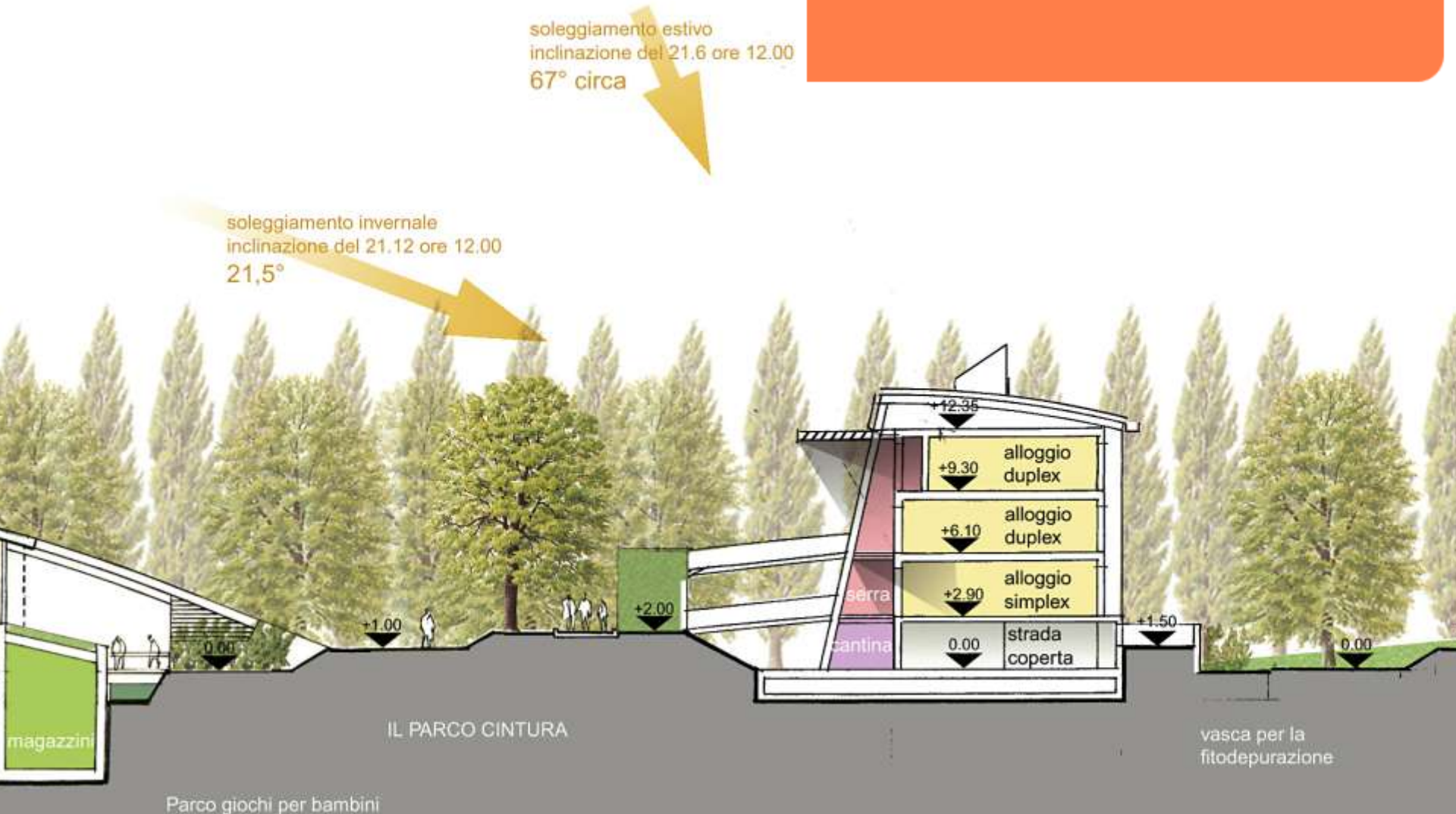
2) 人間性を家に反映させるための、低層住宅の建設

3) 高い柔軟性によって特徴づけられる革新的建築の発展



公共ハウジングモデルの刷新

4) インダイレクトヒート増加システム



環境適合性と省エネルギーの方策

冬の間、効率良く太陽光を取り入れるために、全ての建物は南向きの顕著な拡張を行ってきた。

全ての各室（専有部分）には、南向きに面する太陽光温室が提供され、温室とメインリビングスペースとが直接コミュニケーションが取れるように配置されている。

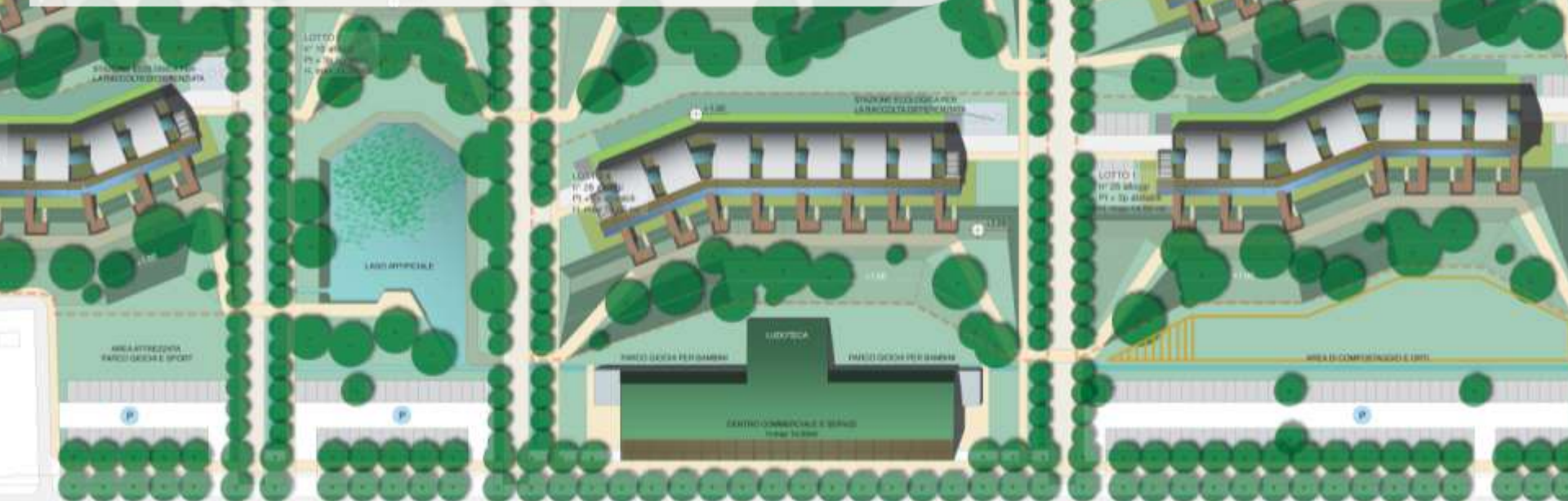
この内部的居住空間は、暖房のための平均エネルギー消費量を一年間に50 kwh /㎡に保つようにデザインされた。これにより、CO2 排出量の減量予測は60%を超える。



景観

このプロジェクトは複雑な緑のシステムで構成されている。チェス盤のような配置を取り、「建物エリア」と「緑化エリア」とが不規則に配列された構成となっている。

緑地帯には、大きな水辺と、都市型庭園があり、庭園内には、有機廃棄物を利用した堆肥作成のためのエリアが存在する。



御清聴ありがとうございました